

「実践紹介」について

俵 山 雄 司

国際言語センターでは、平成14（2002）年にFD班を設け、以後、現在に至るまで、日本語の授業を担当する専任教員・非常勤教員が全員でFD活動に取り組んできました。

令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までのFD活動のうちの1つに、「成功例・要改善例の共有による教育改善」があります。これは、年度ごとに、教員個人が1つの授業を取り上げ、実施概要・成果と課題についての報告を執筆するもので、報告はFD担当者がとりまとめ、全員で共有しています。

2020年度より、FDの取り組みをより発展させるため、該当年度に提出されたFD報告の中から、掲載に適していると判断したものを選び、本年報に「実践紹介」というカテゴリで掲載していくことにしました。今回も多くの高品質の報告が寄せられましたが、そこから、FD委員が5編の報告を選定しました。今回の選定基準は以下の通りです。

1. オンライン授業に即したウェブコンテンツやサービスの使用の状況がよくわかるもの

2. 単なる事実の報告にとどまらず、前の授業からの改善や次の授業への課題の模索の過程がわかるもの
3. 上記1と2の両方の特徴を備えたもの

なお、国際言語センターでは、構成員の研究成果の発表の場として、年1回『日本語・日本文化論集』を発行しています。そこにも日本語の授業を含む教育活動を報告する「実践報告」という投稿（論文）カテゴリがあります。「実践紹介」は、それとは異なり、いわゆる「査読」を経た「学術論文」ではありませんが、教育に資する内容の文章（著作）として位置付けています。「学術論文」ではありませんので、先行研究との関連付け、教授・学習理論や教育思想の裏付けは必須としていません。したがって、引用文献がないものもあります。

一方で、こちらの「実践紹介」には、わずか2ページの中に、著者の経験に裏打ちされた、教授上の工夫や学習者の反応の観察がちりばめられています。ご高覧いただければ幸いです。